



[花き部門]

[農業研究所ホームページへ](#)

1. リンドウ「岡山RND4号」の栽培にはセル当たり2株の苗が適する

[要約]

「岡山RND4号」は1セル当たり2株で育苗すると、定植2年目の切り花品質が1株苗と同等で、可販収量が1株苗より増加する。ただし、定植3年目には切り花品質及び可販収量は1株苗と同等となる。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 高冷地研究室

[連絡先] 電話 0867-66-2043

[分類] 技術

[背景・ねらい]

リンドウの極早生系統は、草勢が弱く、初収穫に当たる定植2年目の収穫本数が少ない。そこで、定植2年目の収穫本数増加のため、栃木県が開発した1セルに複数の苗を仕立てる育苗方法を「岡山RND4号」に適用し、その実用性を検討する。

[成果の内容・特徴]

1. 定植2年目の2株苗は草丈及び花段数が1株苗と同等であるが、萌芽数及び収穫本数が1株苗より増加する。3株苗の収穫本数は1株苗に比べて増加するものの、花段数は減少する。平均開花日は、セル当たり株数による差はない（表1、図1）。
2. 定植2年目の可販収量は2株苗の方が1株苗よりも多い。3株苗では花段数の減少により、1株苗に比べM規格（65cm、3段以上）や規格外（60cm未満又は2段以下）の収量が増加し、2L（85cm、5段以上）及びL規格（75cm、4段以上）収量が減少する傾向がある（図1）。
3. 定植3年目の平均開花日、草丈及び花段数に株数による差はない。萌芽数及び収穫本数も差はない（表1、図2）。
4. 定植3年目の3株苗は可販収量、2L及びL規格収量が1株苗より少ない傾向がある（図2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 真庭市蒜山（標高460m）における露地の土耕栽培で得られた結果である。
2. 定植3年目以降は定植2年目と比較して立茎数が増加するため、2株苗は1株苗よりも間引きに要する時間が増加する。
3. 本成果では、200穴セルトレイ（口径2.4cm、深さ4.5cm）に播種し、育苗した。
4. 定植2年目及び3年目の施肥は「岡山県花き栽培技術指針」に準じて、窒素・リン酸・加里を1a当たり1.5kg・1.2kg・1.4kg施用した。
5. 「岡山RND4号」の2株苗は、令和6年度分から県内農家に限定して供給される。
6. 県オリジナル品種の愛称は、関係機関と協議の上、全て「おかやま夢りんどう」に統一し、「岡山RND4号」は必要に応じて「おかやま夢りんどう（岡山RND4号）」と記載することとしている。



[具体的データ]

表1 育苗時の苗本数の違いが「岡山RND4号」の生育、平均開花日及び収穫本数に及ぼす影響

定植後年数	処理区	萌芽数 (本/株)	平均開花日	草丈 (cm)	花段数 (段)
2年目 (令和4年)	1株苗 (慣行)	3.7 a ^z	7月11日	75.4	3.3 a
	2株苗	5.4 b	7月12日	76.4	3.0 ab
	3株苗	6.8 b	7月13日	71.3	2.4 b
	分散分析 ^y	**	n. s.	n. s.	*
3年目 (令和5年)	1株苗 (慣行)	7.9	7月12日	76.4	3.2
	2株苗	10.1	7月12日	80.7	3.1
	3株苗	9.8	7月14日	73.8	2.6
	分散分析	n. s.	n. s.	n. s.	n. s.

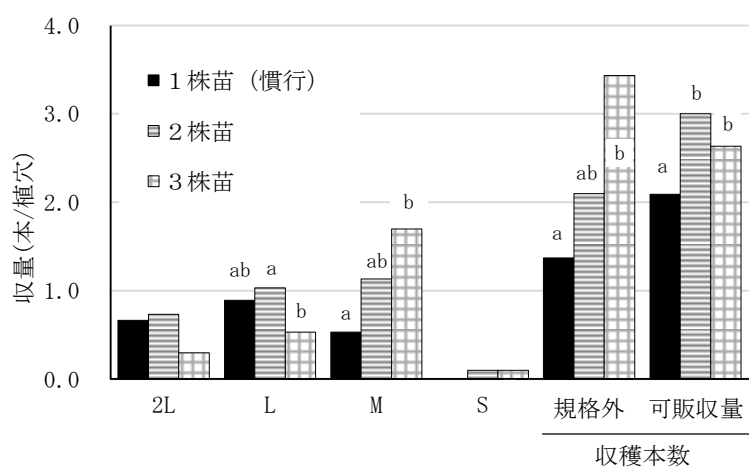
^z異なる英文字間に5%水準で有意差があることを示す (Tukey-Kramer法、n=3)^y分散分析により、**は1%水準で、*は5%水準で有意差あり、n. s. は5%水準で有意差がないことを示す

図1 育苗時の苗本数の違いが規格別収量に及ぼす影響 (定植2年目)

注) 異なる英文字間には5%水準で有意差あり (Tukey-Kramer 法、n=3)

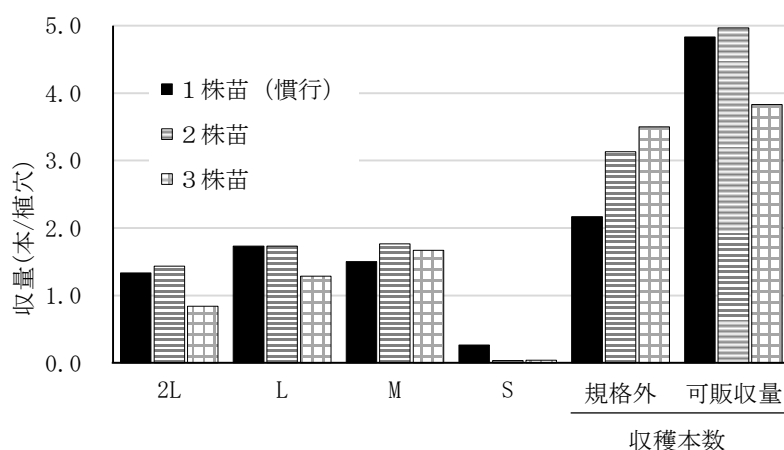


図2 育苗時の苗本数の違いが規格別収量に及ぼす影響 (定植3年目)

注) 各項目について、5%水準で処理区間の有意差なし (Tukey-Kramer 法、n=3)

[その他]

研究課題名：岡山県の気候に適したリンドウ新品種の育成

予算区分・研究期間：県単・平29年度～継続

研究担当者：金田紗葵、竹岡みのり

関連情報：1) 試験研究主要成果、[平30 \(71-72\)](#)